

## イブラヒム・タウフィーク 研究員（モルディブ）



はじめまして。私はモルディブから来ましたイブラヒム・タウフィークと申します。私はモルディブ国防軍のオペレーション・トレーニング局で副課長として働いています。ここでの職務は大きく二つあります。ひとつは、軍及び人道支援、災害救助活動、国内防衛などの活動を運営することです。もうひとつは、関係機関及び関係国と連携して、様々なトレーニングや会議、セミナーをコーディネートし、兵士や海軍の人材開発を目的とした機会を提供することです。ここにおける私自身の主な業務は、モルディブ国防軍の他のユニットと連携して、様々なオペレーションやトレーニングを実施することです。災害に関する活動は現在補足的な業務ですが、当該分野においては、国家災害管理局（NDMC）による防災分野における国家緊急活動計画に関する業務などに携わってきました。

今回、客員研究員としての貴重な機会を頂いた ADRC の皆様に感謝を申し上げます。来日して以来、日本における災害後の復興の力に大変驚いています。日本は防災について効果的に学ぶことができる素晴らしい国の一つだと思います。また、今回のような客員研究員プログラムを通じて、日本を含めたアジア各国からの研究員が集まり、防災について学ぶことができる素晴らしい機会が多くあると思います。私のゴールは、災害による被害リスクの軽減を図ることで、得た知識を自国に持ち帰り、災害時における即時対応や効果的な復興活動を伝えることです。

今回、私が ADRC で取り組みたい課題はコミュニティ防災です。本分野を選んだ目的は、モルディブが 1200 にも及ぶ島々から形成され、コミュニティ防災を学ぶことが、減災という視点でとても重要になってくるからです。財政面など私たちがモルディブで直面している様々な問題を考慮すると、コミュニティレベルにおいて災害に強い家屋を建築し、住民に決定する意志を持たせて防災意識を高めることが、我が国における防災の分野で大切になってくると思います。私たちは、次世代のため災害リスクの軽減を目指し、コミュニティレベルの防災能力向上を目指すことがとても重要な活動になると思います。